

Multilingual Electronic Newsletter

多言語メールマガジン

かごしま南の風便り



Kagoshima Southern Wind Tidings

VOL.179

▽トピックス

1 国際交流員のコラム

ご存知でしたか？東洋と西洋の違い

－ 鹿児島県国際交流員 ウォン・イミン(シンガポール出身)

2 知事の動き

ベトナム・ハイズオン省を表敬訪問し、意見交換を行いました(7月11日)

ベトナム・ハノイで県産品トップセールスを行いました(7月11日)

ベトナム国立農業大学と連携協定を締結しました(7月13日)

3 かごしまの国際交流

香港の伍倫貢(ウーロンゴン)大学の日本語研修生が鹿児島に訪問しました
(7月17日～30日)

4 かごしまの出来事

第47回全国高等学校総合文化祭が開催されました(7月29日～8月4日)

国際交流員のコラム

●ご存知でしたか？東洋と西洋の違い●

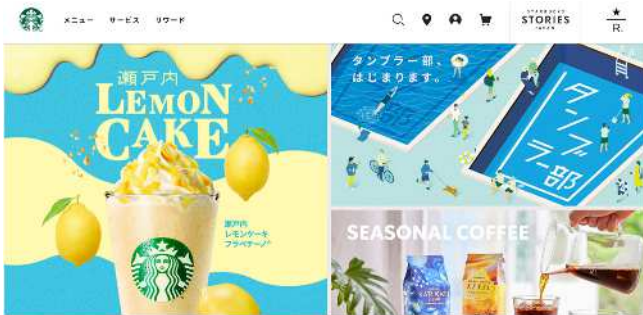
ー 鹿児島県国際交流員 ウォン・イミン(シンガポール出身)

日本のウェブサイトと西洋のウェブサイトの違いに気づいたことはありますか？この話題は、ある日の雑談の中で出てきて、興味を持ってさらに調べてみました。

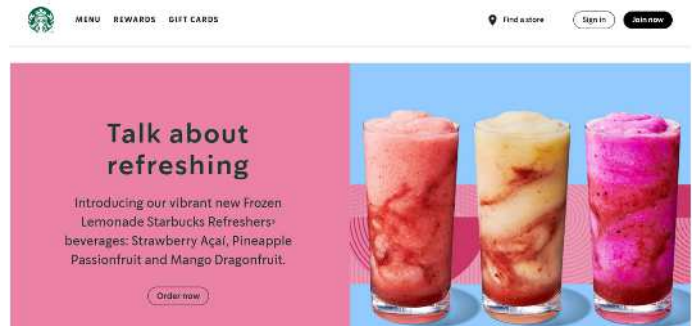
もちろんこれは一般的な話であり、その中には違いも例外も必ずありますが、特に電子商取引や販売サイトの場合、日本のウェブは一般に異なる設計になっているように見えます。

日本のサイトを見ると、よく派手な色、きらきら光るバナー、隙間なく敷き詰められている文字、多くのコラムとかがあって、全体的に混雑なイメージを持つ方が多いです。逆に、西洋の方のサイトはシンプルなデザインで、少ない焦点を持つミニマリストな外観がよくあります。

それはなぜでしょうか？



日本のスターバックス



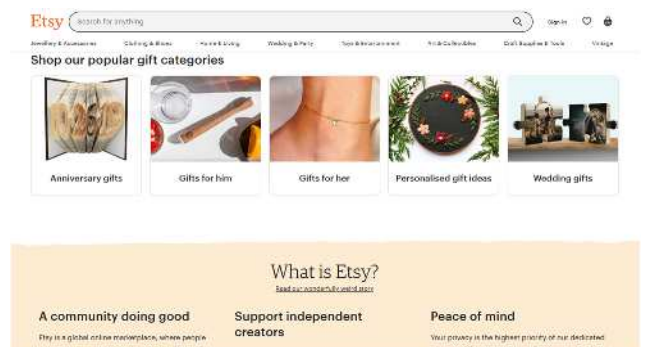
グローバルのスターバックス

なぜこうしたウェブデザインの違いがあるのか、4つの理論を紹介します。これらの理論における西洋人はヨーロッパ、そしてヨーロッパ人が定住した米国、カナダ、オーストラリアなどの人々として定義します。一方で、日本を含めた中国、韓国などは東洋人と定義します。

また、このコラムはどちらの文化が良いかではなく、文化の違いを明らかにすることを目的としています。



日本のショッピングサイト楽天市場



アメリカのショッピングサイト

文化心理学的

私たちの脳が情報を処理する観点から見ると、西洋人と東洋人の世界観は一般的な違いがあるとの研究があります。

西洋人は全体的に、個々の物に焦点を当てて細部と関連付ける「分析的思考者」の傾向が見られます。

一方、東洋人は全体をとらえてから物事の関係に焦点を当てる「総合的思考者」の傾向がみられるため、どのような場面でも場の空気を読んでいきます。

この情報処理の違いは東洋と西洋の情報の提示方法にも違いを生んでおり、東洋では西洋と比べて情報量が圧倒的に多く、文脈に沿ったものになっています。また、明らかに中心となる情報は少ないものの、文脈上の関係を通じた構成が見られます。

このため、日本のウェブサイトでは限られたスペースに最大限の情報が無駄なく詰め込まれ、余白も最小限となった右のチラシのようなものになっています。



分析的思考者・総合的思考者



日本のチラシ

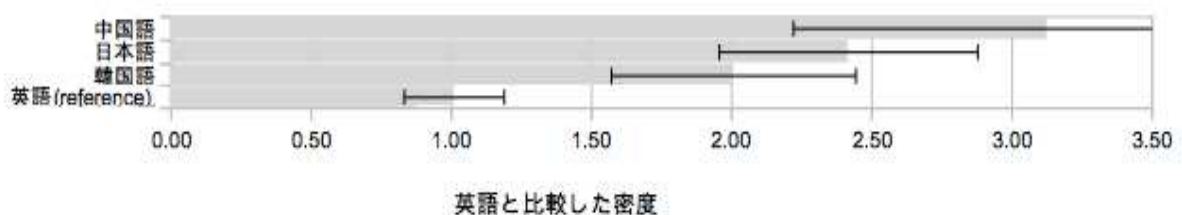
言語的

象形文字がベースの文字の日本語には1つの漢字で多くの意味が含まれています。一方、英語はアルファベット言語であり、それ自体では何の意味も持たない文字ですが、並べると意味を形成する言語体系です。

そうすると、日本人にとっては短時間で多くの情報を処理することができますので、詰め込まれたウェブサイトは乱雑ではなくて、効率的に情報が詰め込まれるように見えます。

言語の「密度」

各言語で書かれたツイートを英語に自動翻訳した文章の長さとの比較した。
同じ140文字でも中国語/日本語/韓国語のほうが英語より2-3倍多く書ける。
各データ点は100-1200ツイート程度から算出
15/03/27 @kenkawakenkenke



<http://kawalabo.blogspot.com/2015/03/140.html> より

まとめ

雑談をきっかけにとっても勉強になりました。

文化で情報の提供と受け取り方に大きな影響があるのはすごく面白くて、お互いの異文化理解にも必ず役に立つと思います。どちらのアプローチが優れているとは言えず、ただ違いだけです。

ですので、次回シンプルなミニマリストの西洋サイトと敷き詰められている情報量多い日本サイトを見ると、その背後には実際に理由があることが分かると思います！

知事の動き

●ベトナム・ハイズオン省を表敬訪問し、意見交換を行いました(7月11日)●

令和元年に連携協定を締結したベトナム北部のハイズオン省のチャン・ドゥク・タン共産党書記を表敬訪問しました。

その後、連携協定に基づく連携・協力の実施内容について意見交換を行いました。

意見交換では、人材の確保、農業分野での技術協力、ハイズオン省への投資促進などのテーマについて意見を交わしました。

人材の確保については、ハイズオン省の人材を本県に向けて送り出すために、関係機関同士のマッチング機会を設けること、農業分野での技術協力については、本県の優れた農業技術をハイズオン省の技術職員に指導することなどを提案し、今後の連携・協力を推進していくことで相互に確認を行いました。



●ベトナム・ハノイで県産品トップセールスを行いました(7月11日)●

イオンモールロンビエン店と多くの日本産食品を取り扱う地元企業の AKURUHI(アクルヒ)グループのハノイ店を訪問し、店舗の視察や代表の方々などと意見交換を行いました。

知事からは、鹿児島和牛やブリ・カンパチ・うなぎなどの水産物、本格焼酎や黒酢など鹿児島の豊富な食材や、大島紬、薩摩焼など鹿児島が世界に誇る伝統的工芸品の魅力を紹介するとともに、県産品の取扱拡大について協力を要請しました。

イオンベトナム北部代表は、「うなぎなど水産物に特に販路拡大の可能性を感じる」との感想を述べられました。

また、アクルヒの営業担当者は、「特にかごしま黒豚や甘めの調味料に興味深いので、次は鹿児島の産地を訪れて、取り扱いを考えてみたい」と述べられました。

各店舗での意見交換を通じて、経済発展著しいベトナムでの市場拡大の可能性を改めて感じました。県産品の輸出拡大に向けて、今後も取り組んでまいります。



●ベトナム国立農業大学と連携協定を締結しました(7月13日)●

ハノイ市内にあるベトナム国立農業大学を訪問し、同大学と人材の確保や育成に関する連携協定を締結しました。

同大学のラン学長は、今回の協定締結のきっかけとして、鹿児島県からの求人情報を提供してもらえば、優秀な人材を教育し、送り出すと述べられました。

知事からは、本県は農業が盛んであり、鹿児島に来てくれた人材に農業の技術を学んでもらい、帰国したのち、ベトナムの発展に大いに貢献できるよう、最大限の努力をしてみたいとお伝えしました。

協定には、鹿児島県が大学に求人ニーズに関する情報を提供すること、大学は適切な人材を募集し、教育を実施することなどが盛り込まれており、今後のベトナム人材の安定的な確保に繋がることを期待しています。



かごしまの国際交流

●香港の伍倫貢(ウーロンゴン)大学の日本語研修生が鹿児島に訪問しました (7月17日～30日)●

公益財団法人鹿児島県国際交流協会が、香港の伍倫貢(ウーロンゴン)大学で日本語を学んでいる学生を受け入れました。学生の皆さんは2週間にわたり日本語学習を中心に商業施設での館内放送などの職場体験や、日本文化体験等をとおして日本語を学びました。



かごしまの出来事

●第47回全国高等学校総合文化祭が開催されました(7月29日～8月4日)●

「文化部のインターハイ」と呼ばれる第47回全国高等学校総合文化祭(2023 かがしま総文)が開催されました。全国から各都道府県を代表する約2万人の高校生による芸術文化活動を披露する祭典で、演劇や吹奏楽、郷土芸能など、22部門の発表・競技が7市1町で繰り広げられました。



